

ピアノ独奏

● 芦澤 杏 (小6)

先日は校外演奏会という大きな舞台に出演することができ、とてもうれしかったです! 本番直前の練習している時はいつも通り弾けました。本番になって会場内でのブザーがなった時、緊張してしまい、汗がすごくでてきてしまいました。でも、舞台上に立ちピアノの前にすわると不思議と気持ちが落ち着きいつも通りの演奏ができました。聴いている方々にショパンの美しい曲想が伝わってくれていれば良かったと思います。

貴重な経験になりました。ありがとうございました。

● 小倉 美春 (中1)

11月の終わり頃、松谷園子先生からオーディションのお話を頂きました。その時は、あと1ヶ月半しかないのに間に合うのかという理由で、1回「受けません」と言ってしまいました。しかし、その後本当にそれでいいのか、という気持ちになり、とても悩み、覚悟を決めて受けることにしました。曲目も決まっていなく、練習を始めたのは1ヶ月前。それからは、自分との戦いだったけれど、大好きな曲だったのと、こうなったら受かってやるという気持ちのおかげで、なんとか仕上げることができました。しかしオーディション当日は自分で納得のいかない演奏をしてしまい、自分の気持ちの弱さと努力の足りなさを自覚しました。が、思いがけず合格ということで、伝統のある大きなホールで弾ける素晴らしい機会を与えられたのだから精一杯の努力をしようと考えました。

そして、それからは目の前の細かいパッセージを弾くことに力を費やしていたのを、大きな流れの1つとして認識するようになったりと、様々な変化の過程を経て本番の日を迎えました。昨年よりリラックスして臨むことができ、残響にも耳を傾けながら、オーディションの時の悔しさをバネに、自分で納得のいく演奏ができました。また舞台上で聴衆と音楽を共にする喜び・幸せを初めて経験し(特に、例のBが決まったときの嬉しさ!)努力すれば報われるということを改めて実感できました。このような良い経験ができたのも、いつも見守ってくださった両親、先生のおかげだと思います。これからも機会があれば、いろいろな舞台を踏んで、演奏することの喜びを実感したいです。

● 松田 龍 (中1)

本番直前はとても緊張しました。ですが、弾き始めた頃には緊張もなくなりました。何度か音はずしましたが、無事に弾ききることができました。

本番後、先生から様々な注意を受け、今後の課題になりました。

僕にとって、とても良い日になりました。

聴いてくださった方、教えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

ヴァイオリン独奏

● 島田 光博 (小4)

今回演奏会に出られてとてもうれしかったです。オーディションから本番までが長かったのでこの曲にあきてしまいそうになったけれど、今までに気がつかなかったところに気づけたり演奏に色々な工夫があることが知れて楽しかったです。これからも色々な曲を弾いてみたいので たくさんがんばりたいです。ありがとうございました。

● 岩本 莉奈 (小5)

この演そう会に出演出来ることを目標にがんばってきました。今回初めてこのよ
うなきかいをあたえていただき、まずはうれしい気持ちでいっぱいです。
この曲は技術てきにはむずかしい曲でしたが、ミスをおそれずに明るくはなやかに演そうすることを心がけました。とう日は自分なりに気持ちよく演そうすることが出来ました。
また出演することが出来るよう努力していきたいです。

● 小林 香音 (小6)

今回の「序奏とタランテラ」の演奏にあたっては、序奏の切ないが甘く歌うところ
と、タランテラのだんだんと激しく高まっていくのを表現したいと思っていま
した。弾いているうちに、自分自身も音楽の中に入っていきように感じました。沢
山の聴いてくださった方々に、こんな気持ちが伝わっていたらうれしいです。こ
れからも、作曲家が生きた時代や背景、何を伝えたかったか、などを深く考えて、
表現していきたいと思います。
このような素晴らしい機会を与えてくださってありがとうございました。

● 飯守 朝子 (中2)

校外演奏会というのは一般のお客様にも聞いていただくものなので、長い期間練
習をする(同じ曲を)のが普通です。今回初めて出演させていただき、演奏する喜
びを確実に手に取ることができましたが、同じ曲を4、5ヶ月やるのはなかなか
つらいものがあります。でも、だからこそ終わった時の喜びがありました。多少
緊張はしたものの、楽しんで弾くことができました。発表会とは違う雰囲気にと
まどいはありましたが、放送してくださった方や誘導してくださった方の励まし
で無事終えることができました。
ありがとうございました。

● 石倉 瑤子 (中2)

序奏とロンド・カプリチオーソは、有名な曲だけにとっても難しかったです。最後
の最後までスラー・スタッカートが弾けなくて四苦八苦ししました(-_-!)

グリーンホールは音響がいいのもあって、スラー・スタッカート以外でも弾けていない所がたくさんあったのがよく分かりました。前日のレッスンで、16分音符や32分音符が全部聴きとれないと言われてあせりましたが、本番は落ち着いて弾けたと思います。

今までお世話になった方々に感謝の気持ちを込めて、研鑽を積んでいきたいです。

二台ピアノ

● 島田 美穂 (中2)

今回、アンサンブルだったので、演奏会までにもソロとはちがう感覚が味わえて、すごくよい経験ができて、よかったです。

8手は全員で協力して編曲したので、すごく楽しかったです。練習では、慣れないこともあって、大変なこともありましたが、終わったときは達成感がありました。

今回のことは、これからにも役立つことだと思うので、忘れず、この経験をいかしていきたいと思います。

● 千原 賢美 (中2)

この度は出演させていただきありがとうございました。私は校外演奏会に初めて出ました。2台ピアノの舞台での発表も初めてですし、クラリネットやチェロと一緒に演奏するのも初めてでした!!ソロとは違った楽しさがあり、難しさもあり、勉強になりました。

2人で、4人で弾くときはお互いの音をよく聴いていないと美しいハーモニーになりません。単純なことに没頭してしまい、よく3人に「顔がコワイよ…」と言われていました。(笑)しかし、本番は楽しく演奏できてよかったです。(たぶん顔はコワくなかったはずです…?)

おそらく、私達4人が大人になって、何かの機会に顔を合わせることがあったら… 2010年3月22日を思い出し、また弾きたくなるかも…。

オーケストラ

● 安重 友香 (小6)

初めてヴィオラを持ちました。ヴァイオリンよりもひと周り大きくて、重かったです。最初は音程をとるのが大変でした。でも、一生懸命指を広げて練習したので、最後には音程がちゃんととれるようになりました。

ブランデンブルグ協奏曲は、ヴィオラにもたくさんメロディーがでてきます。また、いろいろな楽器でメロディーを受け渡しするので苦労しました。でも最後には、みんなでいろいろな音を聴き合っていい音楽ができたと思います。

ヴィオラを弾くのも楽しかったです。またやってみたいと思いました。

[今後の予定]

5月23日 ヴァイオリンの発表会

9月12日 ヴァイオリンの発表会

● 内山 剛博 (小6)

今回初めてのAオケでの演奏会でした。Aオケで弾いていて一番感じることは音の違いです。Aオケはなにか音がまとまっているような気がします。これからはAオケのまとまった音に合う音作りをしていこうと思います。

● 江口 友理香 (小6)

楽しく演奏できてよかったです。今までおしえてくださった先生方、どうもありがとうございました。

● 斉藤 碧 (小6)

演奏会までの練習は、演奏しているオケのみんなと一緒にできて、とても楽しかったです。

当日は、リハーサルで出入りを練習しなかったので、舞台まで歩くところが緊張しましたが、弾き始めると、集中していたので、時間が短く感じられ、楽しかったです。また、校外演奏会で演奏するのが楽しみです。

● 高岡 桃子 (小6)

Aオケにあがって、友達がたくさんできて、とても楽しかったです。曲はとても難しかったです。これからも色々な曲をひけるようになりたいです。

次はモーツァルト ディヴェルティメント No.138 ですが、前に目黒教室のアンサンブルでNo.136をやったことがあります。とても楽しみです。

中1になったら、Aオケの曲と、自分のレッスンの曲と、両方、一生懸命練習していきたいです。

● 西條 貴登 (小6)

ブルンデンブルク協奏曲でチェンバロと共演でき、とても楽しかったです。

チェンバロの音がとても繊細なので、音が消えないようによく聞き、ハーモニーを楽しみました。

ぼくはバロック音楽が好きです。

ピアノとはアンサンブルをした事がありますが、チェンバロともアンサンブルをしてみたいです。

● 井出 奏 (中2)

今回の演奏会で、初めて私達中2がトップをやった事で、いろいろな事を学習できました。注意したことといえば、この演奏会で弾いた曲はパートの割り振りが多く、各パートの人数が少ないので欠席をしないようにしたことです。それからよくこの曲はメロディーラインがいろんなパートに移動するので聞きのがさな

い様に弾いたことです。

本番では、ちょっぴり緊張しつつではありましたが、皆さんそれから指揮者と気持ちを合わせられたと思ってます。とくにテンポ感も自分的に一番良かったのではないかなと思いました。

これからも(あと一年をきりましたが)楽しくオケに参加していけたら良いなと思います。

● 岡野 瑛美 (中 2)

今回の曲は 11 パートもある曲で、音がたくさんあって面白かったです。主に伴奏にしかまわらないようなヴィオラでもちゃんとメロディーの部分があって、良かったです。メロディーがどんどんパートを渡っていくところも面白かったです。弾いていて楽しかったです。

● 小池 星花 (中 2)

今回演奏したブランデンブルク協奏曲は、私が A オケに入って初めてのバロックでした。いままでストラビンスキーやら邦人作曲やらと、結構現代系なものをやっていたので、とても新鮮で楽しかったです。それに私は光栄なことに、コンミスとソロもやらせていただきました。今回のソロは普通のソロではなく、2 楽章のカデンツァだったので、シーンと静まっている空気の中、一人で黙々と弾くのはスゴク緊張しました。でも逆に気持ち良かったです。指揮者からいきなり花束をわたされた時は、とまどいましたけど、うれしかったです。とても楽しい演奏会だったと思います。

● 多和田 智大 (中 2)

今回の曲は、バッハの「ブランデルブルグ協奏曲」の 3 番でしたが、この曲で最も気を付けたのは、テーマのパートとそれ以外のパートのバランスです。ヴァイオリンがテーマの時は他のパートが大きかったり、チェロがテーマの時は他のパートが小さかったりと、丁度良いバランスにするのが大変でした。

僕は、この曲を練習していた 11 月に指を骨折してしまい、1 ヶ月間見学をしていました。ただ、その 1 ヶ月間で、一、三楽章のメロディーを今どのパートが弾いているのか、楽譜に書きとることが出来たので、1 月からの練習には、とても役立ちました。

また今回はチェンバロがオケの中に入って演奏しました。見たり、弾いたりしたことはあった楽器でしたが、共に演奏したことは初めてだったので、オケ側が配慮しなければならないことなども学べることが出来、とても良い経験になりました。